

脇坂 裕一・よしみ 夫妻（新潟県阿賀野市）



脇坂夫妻

・平成16年に家族経営協定を締結、平成25年に法人化し「株式会社 脇坂園芸」を設立、認定農業者となる。

・平成27年、加工直売施設「Soel」を開店。生だけではなくドライのエディブルフラワー製造や加工品（紅茶、塩、米粉スイーツ等）を商品化し、事業を拡大。

・全国の商談会によしみ氏の花ソムリエ、エディブルフラワーコーディネーターの資格を活かして出展し、レストランや飲食店等の販路を開拓。フードメッセinにいがた2018にて6次産業化大賞の日本食料新聞社賞を受賞したことをきっかけに、ドライエディブルフラワーの海外輸出を開始し、さらなる経営発展に取り組む。

・阿賀野市内の福祉事業所に輸出用ドライエディブルフラワー製造を委託。多様な人材が活躍できる環境を整備し、障がい者の期間雇用につなげる地域に先駆けた農福連携に取り組む。

・女性従業員の意見を取り入れてメインターゲットの女性消費者を意識した商品づくりを心掛けている。多数の女性従業員を雇用し、農業大学校生には農業指導、子育て世代には柔軟な就業時間を認める等、従業員が働きやすい環境づくりを行っている。



加工直売施設「Soel」

・昭和58年、裕一氏は、水稻兼業の自家に就農し、農業研修先で学んだ鑑賞用花の栽培を始める。よしみ氏は、結婚を機に就農し、農業に従事しながら地域活動や農産物加工技術の習得を始める。

・平成23年、東日本大震災が起こり、復興支援隊に参加したところ、農家であるのに生きるために必要な生活物資を提供できず、見るだけでなく食べることができる花を作ろうと考え、新潟県で初めてのエディブルフラワー（食用花）の生産を始める。



ハウスで栽培しているエディブルフラワー



サラダにエディブルフラワーを添えて

・女性の新規就農にむけた相談者も多く、インターンシップの受入や地域の農業者とのつながりの場を創出するなど、農業後継者の育成に貢献。

・令和5年、裕一氏は「日本エディブルフラワー協会」の理事に就任。よしみ氏は、農村地域生活アドバイザーで役職を兼任し、県全体の農福連携の推進や地域振興活動に尽力。